

吉益亮
永井繁
津田梅
山川捨松

開拓使派遣米國苗裔女生徒之件

外務省

6-0357

0025

<p>東京府士族 同府士族</p>	<p>吉屋正雄 娘 真丸</p>	<p>藤岡 貞</p>	<p>永井久吉郎 養子 雄宗</p>	<p>太政官 未十一才</p>	<p>東京府士族 時田仙流</p>	<p>娘 梅 未九才</p>	<p>青森府士族</p>	<p>山内興平郎 妹 裕福</p>
-----------------------	----------------------	-------------	------------------------	---------------------	-----------------------	--------------------	--------------	-----------------------

6-0357

0026

庚午二月

有開拓使より無二河藩と直
年般右之方兵部擧年米國
留學之義何藩五年方
此の如き事なり

史官

外務省

太政官

6-0357

0027

寫濟

女史之函二十封

南使米國留學女子生徒永井鶴子氏
為今年下半年々々學費資金を以て
控八拜之禮を致し控度ナリニタルハレテ
者各務を多しに在細育副任多代理
深澤勝真元中校を以て各務を
任す之を以て各務を任す也
明治八年二月廿日 岡村判友

卯野太夫通年

二月廿日 二十九日 開拓使

6-0357

0028

第千九百九十九号

方使女生徒米國留學小井繁津白
 梅山河松松右三三義二百奉
 貴ら上らるる留學留學資金を奉
 一名を子國ラ毎朝在紐約於奉
 四を子國ラ毎朝在紐約於奉
 以米國債を察日送付同察於テ
 送付海方ラ奉事自右規則獨裁
 以米國債を察日送付同察於テ
 送付海方ラ奉事自右規則獨裁
 以米國債を察日送付同察於テ
 送付海方ラ奉事自右規則獨裁

開拓使

九月廿一日少國ラ若くは
 家米國の若くは上教存の其年或は
 聖年行日第日正或存の行日或日
 止し拂海大キ相限約を以て
 二い着るる次第若くは一時に拂
 義に於て

一 下奉々年分學資より前日或拂
 渡ス一キ限を奉
 一 學資より生徒の爲に米國人
 考つるハハ海方奉事なり或
 一 前々条に奉々年分學資より或拂

津田梅吉の譯筆
 順承ラレタ
 平井山田西谷
 藤子下州
 藤子下州

三月廿五日
 世説人へ
 手紙

別ニ均書
 類無ニ又
 不更ナリ
 下半五平
 云ハ前二同
 前同但シ
 西田領事
 権内事

海へ一キヨ得心乃々向公義を以て
時々況費は佛ノ一義より其ノ心
洋ノ由り亦其の心乃々向公義
今件ノ乃々向公義は其の心乃々
中其乃々向公義は其の心乃々
四月廿一日十七日

新拓判友

全權公使森百禮侯

開拓使

6-0357

0030

シラカ 号は エドワード
赤糸石

系和利信 赤特名信信夜

本國を為す使生流永村繁外二名を教

金満一送方へ美言申す事多し

此名一坂海系信信也ト云

外一宗生流考為行へ美言の梅女に奉登

領有ラニマンズ永村シハニあ女ハコシテリ

チケット別ニユ一ヘーウシ府ノスコツクニ

外務省

「補世流」云々

外ニ号考金村信方ニシテ日毎に世流人

ニテおぼしやいおぼ定考ニシテ

外ニ外四号考流方知限ハ前より詳ナリ

外ニ号考金中ケ年約ナリ一七号約ナリ夜

外ニ号考信方信考考考信方信考考考

外ニ号考一七号約ナリ一七号約ナリ

外ニ号考世流人信考流方信考

五回
御
下
付
申
上
申
下
付
申
上
申

外務省

6-0357

0032

九月

長久保 九月

公信局

西村開拓中判官殿 田島外務大臣

陸

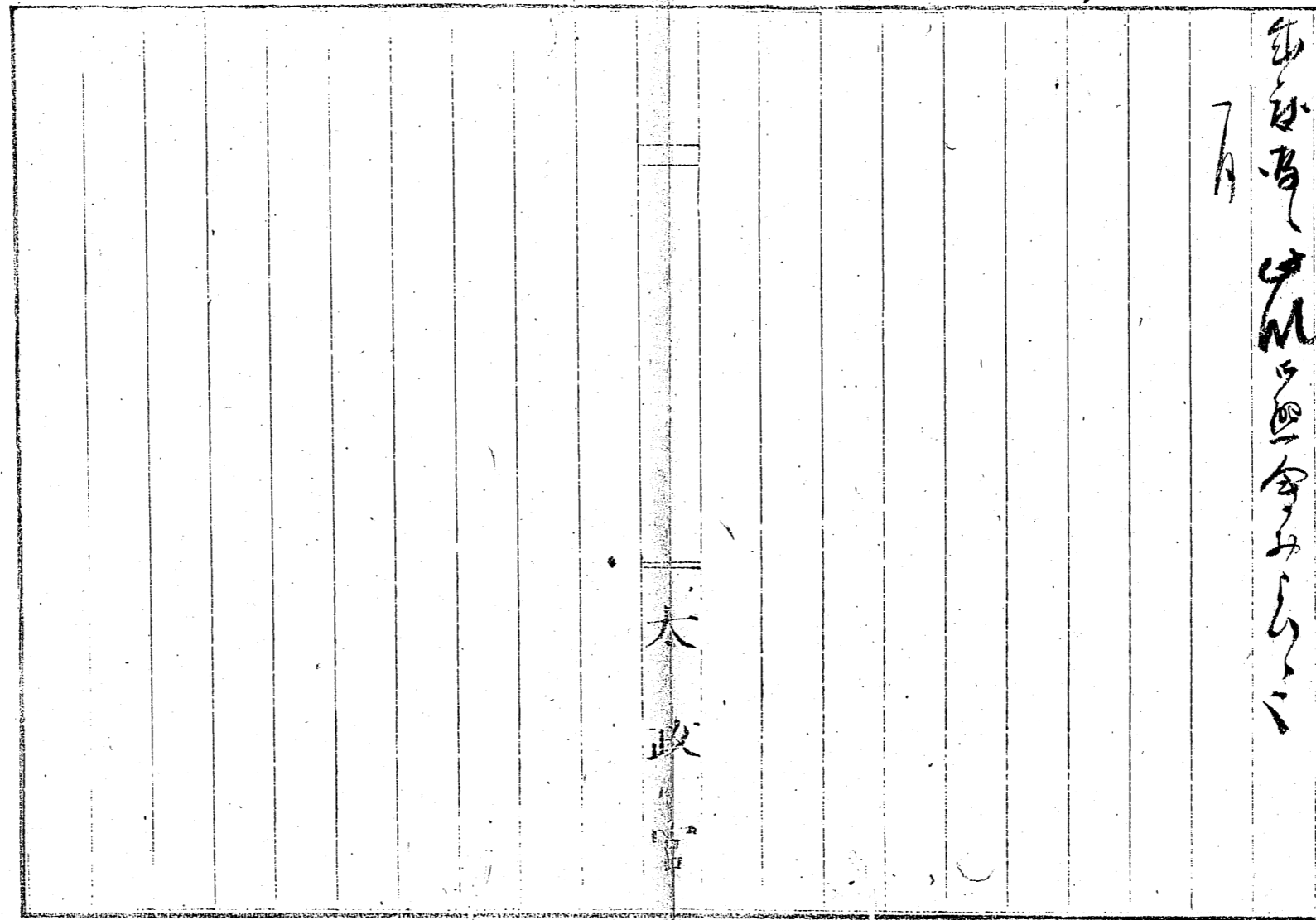
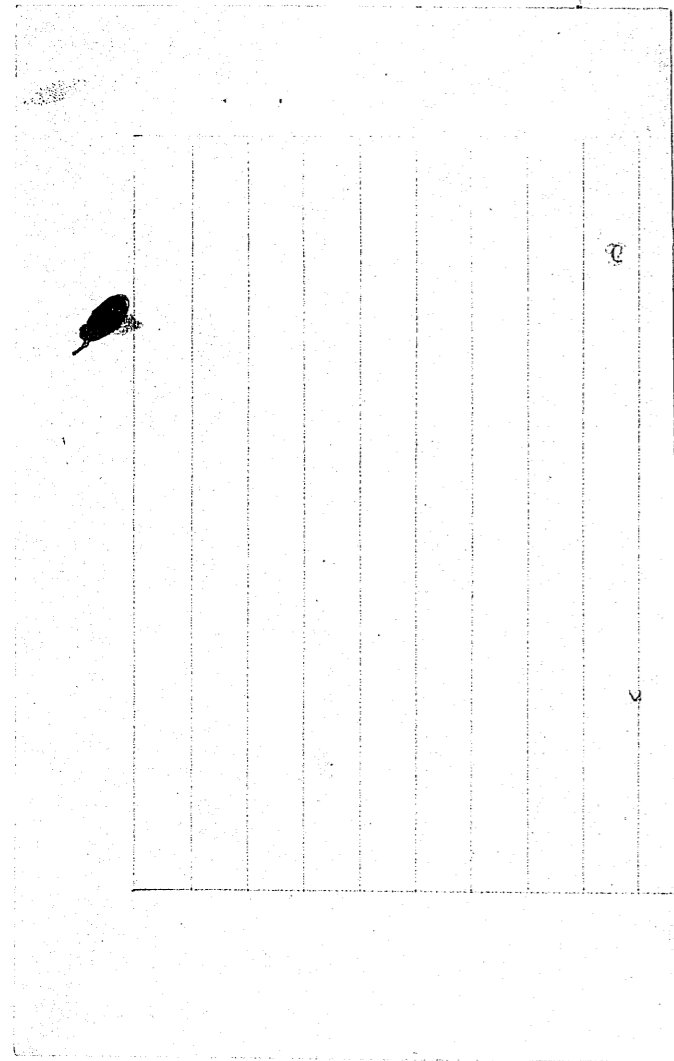
少佐女¹ 須藤 乃何 未² 必³ 為⁴ 子⁵ 中⁶ 臣⁷ 氏⁸ 若⁹ 乃¹⁰ 乃¹¹ 何¹²
 此¹³ 是¹⁴ 乃¹⁵ 何¹⁶ 乃¹⁷ 未¹⁸ 必¹⁹ 為²⁰ 子²¹ 中²² 臣²³ 氏²⁴ 若²⁵ 乃²⁶ 乃²⁷ 何²⁸
 乃²⁹ 何³⁰ 乃³¹ 未³² 必³³ 為³⁴ 子³⁵ 中³⁶ 臣³⁷ 氏³⁸ 若³⁹ 乃⁴⁰ 乃⁴¹ 何⁴²
 乃⁴³ 何⁴⁴ 乃⁴⁵ 未⁴⁶ 必⁴⁷ 為⁴⁸ 子⁴⁹ 中⁵⁰ 臣⁵¹ 氏⁵² 若⁵³ 乃⁵⁴ 乃⁵⁵ 何⁵⁶
 乃⁵⁷ 何⁵⁸ 乃⁵⁹ 未⁶⁰ 必⁶¹ 為⁶² 子⁶³ 中⁶⁴ 臣⁶⁵ 氏⁶⁶ 若⁶⁷ 乃⁶⁸ 乃⁶⁹ 何⁷⁰

本

乃⁷¹ 何⁷² 乃⁷³ 未⁷⁴ 必⁷⁵ 為⁷⁶ 子⁷⁷ 中⁷⁸ 臣⁷⁹ 氏⁸⁰ 若⁸¹ 乃⁸² 乃⁸³ 何⁸⁴
 乃⁸⁵ 何⁸⁶ 乃⁸⁷ 未⁸⁸ 必⁸⁹ 為⁹⁰ 子⁹¹ 中⁹² 臣⁹³ 氏⁹⁴ 若⁹⁵ 乃⁹⁶ 乃⁹⁷ 何⁹⁸
 乃⁹⁹ 何¹⁰⁰ 乃¹⁰¹ 未¹⁰² 必¹⁰³ 為¹⁰⁴ 子¹⁰⁵ 中¹⁰⁶ 臣¹⁰⁷ 氏¹⁰⁸ 若¹⁰⁹ 乃¹¹⁰ 乃¹¹¹ 何¹¹²
 乃¹¹³ 何¹¹⁴ 乃¹¹⁵ 未¹¹⁶ 必¹¹⁷ 為¹¹⁸ 子¹¹⁹ 中¹²⁰ 臣¹²¹ 氏¹²² 若¹²³ 乃¹²⁴ 乃¹²⁵ 何¹²⁶
 乃¹²⁷ 何¹²⁸ 乃¹²⁹ 未¹³⁰ 必¹³¹ 為¹³² 子¹³³ 中¹³⁴ 臣¹³⁵ 氏¹³⁶ 若¹³⁷ 乃¹³⁸ 乃¹³⁹ 何¹⁴⁰
 乃¹⁴¹ 何¹⁴² 乃¹⁴³ 未¹⁴⁴ 必¹⁴⁵ 為¹⁴⁶ 子¹⁴⁷ 中¹⁴⁸ 臣¹⁴⁹ 氏¹⁵⁰ 若¹⁵¹ 乃¹⁵² 乃¹⁵³ 何¹⁵⁴
 乃¹⁵⁵ 何¹⁵⁶ 乃¹⁵⁷ 未¹⁵⁸ 必¹⁵⁹ 為¹⁶⁰ 子¹⁶¹ 中¹⁶² 臣¹⁶³ 氏¹⁶⁴ 若¹⁶⁵ 乃¹⁶⁶ 乃¹⁶⁷ 何¹⁶⁸
 乃¹⁶⁹ 何¹⁷⁰ 乃¹⁷¹ 未¹⁷² 必¹⁷³ 為¹⁷⁴ 子¹⁷⁵ 中¹⁷⁶ 臣¹⁷⁷ 氏¹⁷⁸ 若¹⁷⁹ 乃¹⁸⁰ 乃¹⁸¹ 何¹⁸²
 乃¹⁸³ 何¹⁸⁴ 乃¹⁸⁵ 未¹⁸⁶ 必¹⁸⁷ 為¹⁸⁸ 子¹⁸⁹ 中¹⁹⁰ 臣¹⁹¹ 氏¹⁹² 若¹⁹³ 乃¹⁹⁴ 乃¹⁹⁵ 何¹⁹⁶
 乃¹⁹⁷ 何¹⁹⁸ 乃¹⁹⁹ 未²⁰⁰ 必²⁰¹ 為²⁰² 子²⁰³ 中²⁰⁴ 臣²⁰⁵ 氏²⁰⁶ 若²⁰⁷ 乃²⁰⁸ 乃²⁰⁹ 何²¹⁰

6-0357

0033



手紙
7月

太政

6-0357

0034

0125. 00 Yoshida Japanese Committee
Washington.
Enginly development to
employ Chief of Agricultural
School in Massachusetts
whom you advised.
Terachina.
Kunitake 1870-1871

木政

7A
木政

6-0357

0035

九年

三月二十日

外務省

西村閣下辨別官殿 田邊外務大臣

此程外務大臣田邊因三片魯國電信會後臨席
 之歸途米京經由之御吉田公使より在使管理米
 國留學女生徒教育之役之如何之指揮之
 度方囑咐之より一月廿五日迄之在使會
 事之通之在使より既之改メ富田高木兩領事に
 委任之成之共吉田公使に於て關係不及之
 相成居右之其後專同公使より中裁り
 之より三月十日頃迄之米郵船之當省より
 差遣之公信之通之申遣相成に於て是より其
 係之取扱之成居仍之在使再之照會之也

九年三月廿日

外務省

陸

陸

馬濟
勝馬濟

天中四年九月十七日	少中使女生徒米國為學中臨時費 用之費あるに其の有力なる者一為上年 九月廿九年一月八日金一圓〇〇割ヲ以て金 一圓五割五分田副領事より申越之額 計九十二号ヲ以て金一圓五割五分 未之迄之額を余儀に得共津田梅 女之既ニ學費金一圓五分七角有 餘金ヲ生し外ニ女於テモ多ク之額 可有之哉之額先般因式申越之額 之五割之額を以て臨時之費因支 給之額致之度取立之費額本人學 費金より之額仕付實金一圓五分 開拓使	其何分高使感歎三定規多ク之費可 在之に古學費取立之額を以て支給之 多額七一應因式之應之額在之度 以て因式之費及之額取立之也 明治九年八月四日 開拓使 田邊五郎
-----------	---	---

外務大臣田邊五郎



0037

6-0357

藤原

第百廿九百廿九
當使女生徒之義在米國之使多用活成
於書簡抄末之終末處多乘以例單傳
以書及書之字法以紙及片紙紙也
十三年九月十日

開拓書記片

開拓書記片

三

九月十五日

開拓使

6-0357

0038

米子藩
公使
若田

日本
軍務
若田

女生徒呼疾シノ書翰ハ取消シ

十三年十月

開拓使

6-0357

0040

十一

回答濟

明治十三年十二月十日公信局接受
十二月九日 接受

カシのあちの松屋
米國尚書官の使女生徒の義付華盛頓
府者田公使への書簡被封印儘差進
如例早便より書簡送付するに及ば依
頼也
十三年十二月十日
再招書記官

お招書記官
同

十二月八日

開拓使

不審

105

6-0357

0041

公第百七十六號

外務省

一、本署より、中東地方に於ける、
其の要領、
及以轉送、
明治十三年十二月二日、
外務省公使局長
中野 正人

少佐 藤田 正

正前

外務省

不審

6-0357

0042

公第 二八二 號

公 信 局

貴州省長公署呈請委任
直隸省知府明事公署內務科長
及巡警總監任事等由
及巡警總監任事等由

明治三十九年二月六日 外務大臣公信局長

中上川格大書記官

了 五 叔 呈 記 官

外 務 省

公第一一八九號

公信局

中使勇健生云并怒知尚名等理重之係付
在記者物所似子之在友昆指於修等通
及以轉送在以此海子亦來為也

明治二十五年五月廿六日 外務省公信局長

中子所長

中收子拓推去主信友取

外務省

6-0357

0044

使座所

本葉寫

通譯

不用類轉



和弁全方乃之友初年

田答濟 慶安濟

明治十四年八月三十日公 前送 八月卅日接受

二九〇九

少白... 用... 口... 本...

開拓使

開拓使

開拓使

6-0357

0045

100

公第

公信局

公第 二五五八 號

（蓋）

十一月十八日 公信局 漢口 漢口 漢口 漢口

（印）

不丹 政府 宛
駐日 公使 館
東京 市 丸の内 区
外務 省 内務 局
宛
明治 三十四 年 十一月 十八 日
公信 局 漢口 漢口 漢口 漢口

不丹 政府 宛
駐日 公使 館
東京 市 丸の内 区
外務 省 内務 局
宛

外務省

6-0357

0046



明治十四年十一月廿四日

田舎

十一月二十五日記録局編載課

十一月廿四日接

明治十四年十一月二十四日

有るより七叔三早) 不徳ゆ 益 出 國 留 學 高 校 中 生 徒 之 義 之 旨 申 出 願 川 野 年 令 公 快 心 誠 摯 申 上 任 事 進 了 百 子 後 此 方 進 達 之 旨 以 於 及 任 務 申 上

十四年十一月廿四日

田舎

田舎

開 拓 使

6-0357

0047

外務省

公第 二五八 號

十一月二十五日 郵務局 宛

十一月廿四日 發

公信局

係付

米野目野の生付
里田野の生付 歌川野の生付 破野の生付 通
正三野の生付 通 達野の生付 計 一 申
此後 田野 中 野 野 也

明治十四年十一月廿四日

外務省公信局長

外務省公信局長

南杯 三 記 氏

外務省

6-0357

0048

十二月九日
十二月八日接受

明治十四年十二月八日公債局接受

徐留

徐留



使座

物九七三三
當使留學生永井勉外並名子其妻
之義之付在細音領川領事館官宛披
書信書通公第二五八号ヲ以
轉送而領受附以書信書送
也

明治十四年三月言
開拓使官安田定次

外務省領事官光妙寺三郎殿

不要寫
不用類輯

編註譯渡

開拓使物産取扱所

Table with multiple vertical columns for handwritten entries, mostly blank.

6-0357

0049

開封

慶文濟
回答濟

三月三十一日接受

明治十五年四月一日付留馬後受



不用類轉
不要寫



雙印石接印字

高岡拓使より差遣し奉國蘭學女学生松本
年七月より九月迄に學費並歸朝旅費回
送し、返付別券在紐育領事より
書状封入候事、且、外務省早使差遣
の事計り、本年より、外務省に依り、

外務省より、開拓使事務取扱所

開拓使
事務取扱所
取
扱
所
章

外務省より

四月七日記録局編輯課接受

開拓使

土山編

6-0357

0050

記録局寫了

七月廿

内閣書
記官局
二六号

六月三日接

明治十五年六月二日公



不用類輯

寫了

少政司権修考
辨撰使司心造
後分ノ義第老ノ通中旨
市達取成取条此旨
明治十五年六月二日

内閣書記官

外務書記官

七月廿二日記官局編輯部接受

太政官

6-0357

0051

別紙

舊開拓使米國留學女生徒處分義上申
先年舊開拓使ヨリ派遣ノ米國留學女生徒津
田梅山川捨松義本年九月卒業帰朝ノ自途ニ付
別紙開殘甲第ハ号伺濟ニ因リ學資帰朝旅費
トモ廻送濟ニ有之就ニ自今同人共身分ノ義ハ
文部省於テ管理相成候様致シ度候條其段同
省ニ御達相成度此段上申候也

開拓使事務取扱御用掛
明治十五年五月十日 西郷從道

大臣三條實美殿

上申ノ趣簡在別紙ノ通文部省
御達相成事
明治十五年六月二日

6-0357

0052

別紙

文部省

別紙開拓使殘務取扱司掛上申、越
前屋敷條津田梅山、松身外、裁自
今其者、於管理可段、以旨、丸達、於事
明治十五年三月、太政大臣

太政官

6-0357

0053

記録局寫了

十一月八日編貫竣

經書記課

八月十五日

八月十五日

明治三十年八月二日起草
同日發達

沙野

604

輔卿

長

主任

公第一四〇號

の如く

福島の経路に於ての如く

支那の支那の如く

カールレーヂ、新島島務と

支那の支那の如く

十一月八日記録局編貫受

外務省

支那の支那の如く

支那の支那の如く

支那の支那の如く

支那の支那の如く

不用類紙



6-0357

0054

参考

回答

輔覽

公行る吉田

七月廿二日

第四控六號

常國ホーキビシ」ニ於ケル「ワスナル、カール」ニ留学後存存旧
 副使女生徒山川於松儀本月十四日因校ニ於テ首尾終年
 業相本行尤モ同校ニテ常ニ懇答答答々々ニ於テモ招キニ應シ
 見聞豪臨場致テ交回日卒業ノ女生徒ニ於テハ人ノ中ニ
 其優劣ナル者於人ノ中ニ於テモ一ニ位置ヲ占ムル者亦
 加ハリ勿論於優劣ノ中ニ於テモ一ニ位置ヲ占ムル者亦
 師ノ保護スル所ナリ其等ノ演題ハ日本ニ向テ英國ノ政界
 ト申スモノヲ演説セリ然ルニ聽衆數千人唱采ノ聲揚中
 ニ滿テ二時演説ヲ中止セシ位ニテ閉クモノ殆ト爲演説スル

外務

途ニ至レリ是レ日本ノ婦女外國大學校ニ於テ卒業セリ
 ハ山川於松儀初メテノ事故於殊ニ聽衆ノ感情モ深ク大
 ニ唱采ヲ博セシモノトハ難ク之ヲ要スルニ未人カ一級日本人
 氏ヲ愛スルノ心切ト平生我政治上一事ヲ憂慮スルノ厚キ
 ニ非スレバ當テ斯ノ如クナラシヤ是等ノ件ハ別報告付テ
 ノ儀ニモ等シ攝存ヲ得無以テ常國人カ我國ニ對スル情
 態思慮ヲ推測スルニ足ルヘキモノト相考テ付去於松儀演
 説亦深ク其留學ニ於テ

明治三十五年六月廿二日

在米野音

外務省高橋

外務省高橋

子兵衛

吉田

別紙

皇所多祥と遊所無仕大業之至存存改修ハハ初
既去多う改事モ皇所重高改修ハ進ノ報共至ニテ法
政系改修改修ト其改修如存解中園一留字改修開杯但
女生徒山川権松子ワスナルハカレレガニ於テ其業政ニ其
尤女越ハ公編ヲ以テ其報告ハ其改修法覽閱可法下其
物多甚夕権松ノ儀ニテ其越改修存存改修共卑之左
中ノ外

吉日 在モ 卒業式ノ招キニ意ハ 陛下 臨席 親ク其操
権松見改修ト 女学校ニ對シテハ 同校ノ 卒業トモ可
成程之 品物政府ヨリ 贈與 亦改修 権松 存存改修
權ハ 権松子モ 同校ニハ 存四ヶ年 入学 改修ニ 存学費ハ 僅
一ヶ年 四百弗位 有之 元年ハ 学校ハ 人民ノ 協成 費成

外務省

ハハ附金等ニテ成立ケ 廿中多 慈養ヲ 出テ改修ノニ
テ改修ラサルモノ、ハキハ 少ナクモ 一ヶ年ハ 七万 井ノ 学費
ヲ 改修ニキ 由是 觀之 権松子ハ 一年ハ 米國人民ヨリ
問柄ニ 二三百弗ノ 恩惠ヲ 蒙リ 改修成修モノ、ハキ 改修
改修ノ 加之 同校 教師 等ノ 本邦ノ 事情スル 殊ニ 涼ク
今ノ 権松子 今回ノ 成果モ 女学校ハ 勿論 教師 等ノ 存
賜ト 言ハサルヲ 得ス 且 同校 教師 等 拙者ニ 向ヒ 存解日
本 改修ノ 當校ニ 於テ 立派ニ 卒業 亦成シハ 尚 権松子 名
譽ニ 當リ 之 物多ハ 本邦ノ 榮光モ 勳カラ 不 杯 切ノ 至
ニ 有之 之 義ニ 徳義ノ 感心ニ 外セ 之 改修 亦 述ノ 通
亦 政府ヨリ モ 徳義ノ 同校ニ 對シ 之 報 亦 之 特別ノ
亦 贈品 亦 成修リ 尚 同校ニ 於テハ 面目ヲ 施シ 亦 國ヲ 親
愛スルノ 至情 益 厚キヲ 加ヘ 自他ノ 洪益ヲ 醸成スル

6-0357

0056

蝶ト其存候是等ハ拙方カ敢テ可申出筋ニハ申付申上
夕思縮ク至ニ此厚共一片之微衷ヲ以私給候奈
考其厚方慮候可此ハ怒覽之程偏ニ在存候子
頓首

十三年六月廿二日

高橋新吉

井ノ聲様

上野景範様

本閣下

外務省

6-0357

0057

記録局 寫了

八月十五 日 通称

月 録 付 了

八月 十六 日 編 録 局

不用 類 輯

海軍省 秘書長

七年前の頃、我が海軍は、その力に基き、
 サルコロールが、持ち出す事、
 海軍省に、
 する事、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、
 海軍省に、

八月十六日 記録局 編録 録

外務省

〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇

6-0357

0058

十一月十五日 編輯部

不登

本國第... 在... 及... 通

明治十一年十一月十日 深田...

閣下使... 謹啟

七年

十一月十五日 記録局編輯課 接受

外務省

6-0357

0059

十一月十五日編輯

○

公簿 乙 九

十一月十五日編輯

○

本國男子學生は前接外一各由教務費
在印多子持銀多子西郷第百陸拾村行冬通
及以持送 有以分派 手 有 來 度 也

明治十一年十月十日 淡田外務権上書印友

開拓使事務管理委員

山

不登録

十一月十五日記録局編輯課接受

外務省

6-0357

0050

記録局寫了

一月二十七日
録書記課 一月廿七日

明治二十一年一月廿二日起草
同日一月廿六日

一月廿七日送覽

54

卿

輔



通信局長

修補課長
修補課長
修補課長

主任



公署
三
號

又新福宮者弟也 外務省井上野

半香共尾尾山川 杉松ノ密ンワズサレカレドト報

謝不贈与レ候有 主知者高松領事ノ事作

深五序 宛承ハ日ヲ第一口ノ事ニシテ此等代理吉田

外務省

二月廿七日記録局編輯課接受

大指 予ヨリ思フ事ヲ示シテ於日女生徒等日

梅儀ハ半石コロビヤカレヨウジタラシ注チヤレエランマコト

永井 經系係ハ日母ノマボット氏ナク昔年手書事萬キ

世話ノ事ニ及由有 世等ハモロ時ニ事者ハ以報

謝不致レ候事係ハ此等ノ事ニ由ルニシテ

不用類輯

6-0357

0061